日刊 産業新聞
Japan Metal Bulletin
2025年（令和7年）3月7日（金）
第21126号
Since1936

非破壊検査のマークテック70周年

M&Aで収益基盤構築

粉体、電池・3D造形分野に注力

西本圭吾社長

非破壊検査のトップ企業であるマークテック（東京都大田区）は、3月9日に設立70周年を迎える。2016年にアルコニックスグループへ加わって以降、品質保証領域での積極的なM&A（合併・買収）により、収益基盤を構築してきた。西本圭吾社長に経営方針や注力分野を聞いた。

――設立70周年を迎えた感想を。

「社長就任から10年となる。創業期、成長期、成熟期を経て、いかにもう一度成長軌道に乗せるかが私の使命。M&Aをテコに、祖業の非破壊検査と関わる品質保証領域の拡大に取り組んだ。1号案件の風・環境試験事業は既に収益の柱となっており、今後はレーザー、粉体物性測定や化学系の受託開発・生産なども伸ばしていきたい」

――収益柱を増やす背景を。

「当社は鉄鋼や自動車向けの探傷剤・装置が主力だ。だが鉄鋼は競争激化で国内生産拠点の統廃合が進む。自動車も内燃機関からEV（電気自動車）に代われば部品数が減り、検査の需要が縮小する。新たな収益源を確保するため、品質保証と事業承継をキーワードにM&Aを推進した。成長に向けてもう一段ギアを上げていく」

――事業ポートフォリオの変遷を。

「16年12月期の売上高は探傷剤・装置といった非破壊検査事業が5割、印字・マーキング事業が3割だった。これにM&Aで風技術センター、ニコス、金門光波が加わり、24年12月期は非破壊検査と印字・マーキングがそれぞれ3割、2割がM&Aで獲得した事業となった。事業承継で得た事業が徐々に業績へ貢献しつつある」

――24年7月に親会社のアルコニックスから東北化工を引き継いだ。

「東北化工はブレーキパッドの摩擦材に用いられるカシューバーティクを手掛ける。マークテックグループは機械系の会社が多いが、東北化工は貴重な化学系のメーカー。当社にない設備を保有しており、好調な受託開発・生産ビジネスでシナジーが見込める。一方、業績が伸び悩んでいることもあり、当社の生産管理と営業力を背景とした収益力向上を推進中。今期以降の収益貢献を期待している」

――アルコニックスグループにおけるマークテックの役割を。

「当社はアルコニックスグループの装置材料セグメントにおける成長ドライバーだ。研究開発機能・検査測定機能が当社の強み。品質保証領域での成長が期待されている。組織面ではQCD（品質・コスト・納期）の最適化とESG（環境・社会・ガバナンス）経営に考慮した顧客価値の最大化のため、さらなるテコ入れを推進する予定だ」

――海外での拡販策は。

「アジアでは展開しているが、その先に米国や欧州も見据える。欧米は規模に乏しい製品開発で伸ばす。特に東北化工は日系メーカーだけに販売しているが、今後は中国や欧州のメーカーでも販路を開拓したい」

「探傷剤は現地生産できる体制を進めている。既にインドやトルコでは開始しており、東南アジア米国でも展開していく」

――今期的な経営方針。

「仕事の標準化、質向上、情報の共有化という3つの価値基準を順守し、顧客の信用と信頼を得ることが前提だ。事業領域では粉体の摩擦・強度検査で需要が高まるバッテリーや金属3Dプリンター分野を中心に力を入れる。それとモガキャスト社。鉄からアルミ鍛造・鋳造に代わる中、浸透探傷装置・浸透探傷剤が息を吹き返している。これらは今後発展する分野。新たな需要を捉えていく」

――中長期的に目指すビジネスモデル。

「組織面ではQCD品質・コスト・納期）の最適化とESG（環境・社会・ガバナンス）経営に考慮した顧客価値の最大化のため、さらなるテコ入れを推進する予定だ」

――海外での拡販策は。

「アジアでは展開しているが、その先に米国や欧州も見据える。欧米は規模に乏しい製品開発で伸ばす。特に東北化工は日系メーカーだけに販売しているが、今後は中国や欧州のメーカーでも販路を開拓したい」

「探傷剤は現地生産できる体制を進めている。既にインドやトルコでは開始しており、東南アジア米国でも展開していく」

――中長期的に目指すビジネスモデル。

「長期的な戦略志向として、存在価値の明確化を重視している。世界トップクラスの『品質保証を科学するモノづくり集団』を目指す」

「エコ・サーキュラーエコノミー、モビリティ、メディカル・ヘルスケアは当社が参画できる成長領域だ。検査・測定・評価の需要を取り込む。印字・マーキング事業の水性・トレーサビリティーマーキング、ニコスの自動化、ハイテクライズの粉体物性測定技術など、各事業での領域に関わっていく」

――人材育成の取り組みを。

「次世代に経営を引き継ぐことを考えれば、まずは子会社の経営者を育てることが重要だ。23年から経営層の研修と、次世代人材の研修を交互に実施している」

――次世代の経営者に求める資質は。

「財務会計に加え、管理会計も理解できる人材だ。生産状況を細かく把握することで次に打つ手が見えてくる」

「それと情報収集能力は欠かせない。業界にネットワークを構築し、つかんだ情報からトレンドを見越した製品開発が求められるからだ。市場を先読みし、ニーズを取り込める経営者を育成したい」

（鈴木 大詩）

マークテック 70年の歩み

1955年3月	特殊塗料㈱を設立。蛍光塗料、金属探傷剤の製造販売を開始
1964年12月	神奈川県横須賀市に久里浜工場を建設
1982年10月	印字・マーキング装置の製造販売会社を設立
1987年10月	上記子会社を合併し社名をマークテック㈱に変更
1991年4月	株式を店頭公開
1995年11月	中国に合弁会社蘇州マークテックを設立。（2009年12月に合弁契約を解消）
1997年5月	韓国に合弁会社信勝マークテック（現マークテックコリア）を設立
1999年5月	千葉県に成田工場を建設
2005年10月	タイに合弁会社マークテックコーポレーション（タイランド）を設立
2010年1月	中国に独資会社マークテックチャイナを設立
2010年8月	ジャスダック証券取引所への上場を廃止
2011年1月	タイに独資会社マークテックアジアを設立
2015年10月	インドネシアにジャカルタ駐在員事務所を設立
2016年2月	アルコニックス㈱との資本業務提携により完全子会社化
2018年8月	本田工業㈱（大阪府大阪市）の全株式を取得し、当社の完全子会社化
2020年3月	㈱風技術センター（東京都墨田区）の全株式を取得し、当社の完全子会社化
2020年9月	㈱ニコス（山口県下関市）の全株式を取得し、当社の完全子会社化
2021年11月	技術承継を加速化する目的として、本田工業㈱と㈱風技術センターを合併
2022年7月	㈱金門光波（東京都板橋区）の全株式を取得し、当社の完全子会社化
2023年7月	㈱ハイテクノライズ（東京都大田区）を社内ベンチャー企業として設立
2024年7月	東北化工㈱（栃木県那須烏山市）の全株式を取得し、当社の完全子会社化